Hijicho
大阪市立大学新聞

2016.1.8
第40号

Hijicho　大阪市立大学新聞

Pick Up　2面 ◇ 2016年四者協執行部に迫る Vol.1

ニュース

2面◇五代友厚像、2月に完成予定
4面◇「学生選書2015」展示始まる
7面◇第2回シスターフッド・プログラム開催
12面◇冬の健康フェスタ ヨガ体験で体をほぐす
13面◇新入生特別号レモンライス掲載団体募集！
14面◇ミナミ学生祭2015冬の陣に青桃会が似顔絵ブースを出展

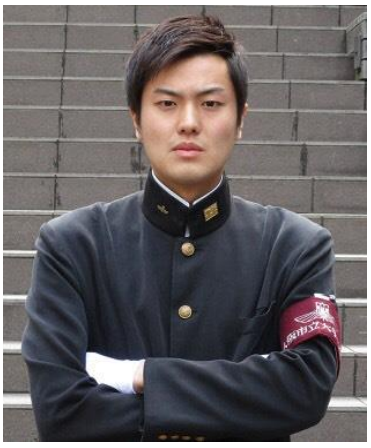
コラム・連載

2面◇夫婦別姓市大内の意識は？
～夫婦別姓に関する学内アンケート調査結果～
8面◇16年卒内定者が語る 私の就活体験記　後編
12面◇市大川柳
15面◇choっとカフェログ
アットホームな焼肉店 ～家族亭～
16面◇マダム鳥子のピーチク
パーチクうるさいわね！ ◇市大フォト

2016年度四者協執行部に迫る！vol.1

2016年度の四者協執行部が決定した。四者協とは、応援団、体育会、音楽系サークル協議会、文化系サークル連合から成る四者連絡協議会の略称である。大阪市立大学最大の学生団体であり、学内で唯一大学側との折衝権を持っている。市大の課外活動を盛り上げ、牽引してくれる重要な存在だ。

今回は、新たに選ばれた2016年度四者協執行部の体育会幹事長と応援団団長を紹介する。



左写真＝体育会幹事長高松哲平さん（本人提供）
右写真＝応援団団長南方徳士さん（本人提供）

2016年度体育会幹事長　高松哲平さん
（所属：商学部2年・軟式野球部）

― 体育会幹事長に任命され、どのようなお気持ちですか。

僕の所属する軟式野球部の先輩が、幹事長をされていたのを見て以前から憧れを抱いており、やってみたいと思いました。やるからには体育会という組織を変えたいと思っています。

― 体育会幹事長として今後どのように取り組んでいきたいですか。

体育会という組織を変えたいと言いましたが、具体的には2つあります。1つは、体育会から大学祭実行委員会により多くの人を派遣することです。毎年、四者協から大学祭実行委員会に人を派遣しているのですが、派遣人数が少ないために大学祭実行委員会に大きな負担がかかっています。学祭に関わる人を増やすことによって、今まで以上に学祭を盛り上げていきたいと思います。

もう1つは、体育会という組織のつながりをより密にしていくことです。定期的に会議や食事の機会を設けて親睦を深めていきたいと思います。

― これまでの市大生活で印象的だったことは何ですか。

2015年度の前期に、商学部のオープンキャンパス企画に携わったことです。高校生に向けて市大の魅力を伝えるプレゼンテーションがあり、その台本を考えました。企画に携わることによって、高校生にどうすればその魅力をうまく伝えられるか、また市大の良さは何なのかを考える機会を得られました。普段の授業とは異なり、少人数かつ学生主体で学べるという点も印象的でしたね。

― 市大の好きなところ、こうなったらいいなと思うところは何ですか。

好きなところはイベントがたくさんあることですね。三商戦や府大戦、ボート祭などがあり、運営する側にとってはやりがいがあります。

また市大の落ち着いた雰囲気が気に入っていますね。総合大学でさまざまな学部の人がいるのも気に入っています。

こうなったらいいなと思うところは、学祭がもっと盛り上がることです。市大生全体で学祭を盛り上げて欲しいと思います。

― 好きなこと、特技は何ですか。

やっぱり野球が好きですね。小学校2年生から野球をやっています。中学生までは福岡ダイエーホークス（現在の福岡ソフトバンクホークス）のファンでした。以前、福岡に住んでいた時はよく観戦しに球場に行っていましたね。少しずつ強くなっていくダイエーホークスを見るのは好きでした。しかし、親会社がソフトバンクに変わってからは補強ばかりするチームになってしまい、チームが強くなっていく過程を見ることができなくなりました。僕はそのようなチーム作りに違和感を覚え、当時チームが成長しつつあったオリックスバファローズのファンになりました。今ではオリックスの熱烈なファンですね。今年は残念な結果に終わりましたが、来年は新たなバファローズが見られると期待しています。

あとはバイクも好きです。今年の7月に250ccのバイクを買いました。まだ遠出したことはないので、どこか行ってみたいです。

歌手ではTUBEが好きですね。今年も阪神甲子園球場で行われたライブに行きました。ライブではウェーブ継続時間のギネス記録を作るイベントがあり、とても楽しかったです。

― 座右の銘を教えてください。

僕の座右の銘は「これも試練」ですね。オリックスの伊藤光選手が使っている言葉です。苦しい時を「試練」として捉え、前向きに考える姿勢に感銘を受けました。何があっても受け入れる心の広さを持ちたいと思います。

2016年度応援団団長　南方徳士さん
(所属：文学部3年・大阪市立大学応援団リーダー部)

― 応援団長に任命され、どのようなお気持ちですか。

伝統ある市大応援団の第53代団長に任命され、誇りと責任を感じています。この代の活動方針である「熟慮断行」という言葉どおり、しっかりと考え、思い切ってさまざまなことに挑戦していきたいと思っています。

― 応援団長として、また四者協として今後どのように取り組んでいきたいですか。

応援団長として、応援を大切にしていきたいです。また、他の部活の方々と積極的に交流していきたいと思っています。全く知らない人に応援されるよりも、知り合いに応援された方がプレーに良い影響を与えられると思いますし、応援している僕たちも、さらに熱が入ります。今後は交流の機会を多く設けたいです。また四者協の一員として、四者協の知名度を上げていきたいと思います。

― これまでの市大生活で印象的だったことは何ですか。

1年生の時に経験した銀杏祭ですね。高校までとは比べものにならない規模や活気、様々な企画に圧倒されました。また、応援団のステージを僕の友達に見てもらう初めての機会だったので、より印象に残りました。

― 応援団に入ったきっかけを教えてください。

高校2年生の時に応援団長を経験し、良い思い出になっていました。その後市大に入学し、応援団の存在を知りました。高校時代とは比べものにならないレベルの高さに驚きましたが、当時の応援団の方々の熱心な新歓や魅力にひかれ、入団を決めました。

― 市大の好きなところ、こうなったらいいなと思うところは何ですか。

学情が好きですね。整った設備や豊富な資料があり、落ち着いた雰囲気を感じられる点がとても気に入っています。

こうなったらいいなと思うところは、もっと多くの人が学祭に来ることですね。四者協としても、学祭をもっと盛り上げたいと思います。

― 好きなこと、特技は何ですか。

人と話すことが好きです。今後も人とのつながりを大切にしていきたいと思います。またフットサルも好きです。今年から新たなフットサルサークルを立ち上げました。初心者が多いですが、楽しく活動しています。

― 座右の銘を教えてください。

座右の銘は「一期一会」です。応援団の活動を通して、人との縁を大切にすることがとても重要だと実感しました。人との出会いを大切にして、日々を過ごしていきたいと思います。

文責
山原怜太朗 (Hijicho)

五代友厚像、2月に完成予定

2016年2月12日に迎える五代友厚の生誕180周年を記念して、大阪市立大学同窓会主導のもと、五代の銅像建立が進められている。

鹿児島県出身の五代は、本学の前身である大阪商業講習所の創設に尽力した人物だ。昨年9月からNHKで放送されている朝の連続テレビ小説「あさが来た」に登場し、注目を浴びている。1868年に外国事務局判事として大阪在勤となった五代は、その後退官し民間人として大阪の経済再建に努力した。自ら事業を起こしたほか、様々な会社の設立にも関与し、近代大阪経済の父とも呼ばれている。

2014年7月に同窓会が結成した「プロジェクト実行委員会」が推し進めてきたこの銅像建立計画は、2016年2月末日までの完成を予定している。設置場所は文学部棟と商学部棟の道路側緑地帯となっている。併せてその場所を「多くの学生が集える憩いの場」として造園し、周辺の環境整備も行う予定だ。3月19日には銅像除幕式典記念行事が開催される。

参考URL
NHK連続テレビ小説「あさが来た」
(http://www.nhk.or.jp/asagakita/)
大阪商工会議所 (http://www.osaka.cci.or.jp/)

文責
大塚成美 (Hijicho)

「学生選書2015」展示始まる

学生選書の購入決定会議が2015年11月24日、学情で開催され、約200冊の新規購入が決まった。また、12月21日からは学情2階・企画展示コーナーにて学生選書の展示が始まった。企画展示終了後は、学情3階学生選書コーナーに並ぶ。

写真＝購入決定会議の様子

写真＝2015年学生選書の展示風景

展示されている本の一部を参加者が選んだ理由と共に紹介する。

『スター・ウォーズ英和辞典　ジェダイ入門者編、ジェダイ・ナイト編』（学研マーケティング）
私はスター・ウォーズが好きで、興味のあることから英単語を学べることはすてきだなと思いました。（経・3・女性）

『メディチ宮廷のプロパガンダ芸術－パラッツォ・ヴェッキオを読み解く』　松本典昭著（ミネルヴァ書房）
メディチ家について海外旅行で知っていたら面白いだろうと思いました。（経・3・女性）

『仕事で得する天気の雑学』　片平敦著（いろは出版）
人気天気予報士が書いた本なので興味を惹かれました。（工・M1・男性）

『大図解　インド経済の実力』　門倉貴史著（日本経済新聞社）
経済分野でわかりやすく国際色のあるものを探すと、この本が目に留まりました。（経・1・女性）

『空海の夢　新版』　松岡正剛著（春秋社）
春に歩き遍路をしたこともあり、空海に惹かれて手に取りました。（文・3・男性）

『世界で一番やさしい建築基準法　平26法改正対応版』　谷村広一著（エクスナレッジ）
マンションの杭データ改ざん問題が話題になりましたが、その時に出てきた建築基準法についてよく分りませんでした。だから、この本で勉強しようと思いました。（工・3・女性）

『音楽で寄り添うということ　ホスピス緩和ケアの音楽療法』　新倉晶子著（春秋社）
先輩に音楽療法士を目指している人がいるので、どんな職業なのか興味がありました。（文・2・女性）

学情2階・企画展示コーナーでは、「学生が選んだ図書の40％は学情にありました」展も同時開催中。両展示とも2016年1月31日まで。

これらの本は学生選書のほんの一部に過ぎない。自分の興味を広げるためにも、一度、学生選書を手に取ってみることをおすすめしたい。

関連ホームページ
学情ライブラリーサービスHP　学生選書ページ
http://libweb.media.osaka-cu.ac.jp/?page_id=322

関連記事
知っていますか？学生選書ツアー
http://hijicho.com/?p=17583

文責・写真
丹下舜平（Hijicho）

夫婦別姓市大内の意識は？
～夫婦別姓に関する学内アンケート調査結果～

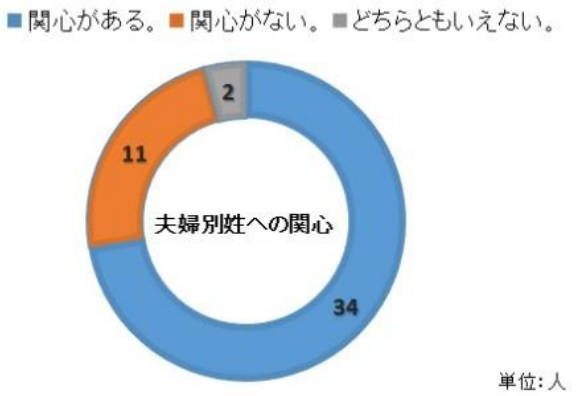
2015年12月16日、最高裁判所大法廷は民法750条（注1）及び733条1項（注2）の規定に関して初めて判断を下した。民法750条は夫婦同姓を、民法733条1項は女性の再婚禁止期間をそれぞれ定める。判断結果は、夫婦同姓を合憲、女性の再婚禁止期間規定を違憲とするものであった。
判決後、Hijichoは読者が身近な問題として夫婦別姓問題について考えることを狙い、「夫婦別姓」に関するアンケート調査を学内で実施した。アンケート調査の概要は以下の通り。

<調査期間> 2015年12月14日～20日
（ただし、回答は判決後とする。）
<調査内容> 夫婦別姓に関して、あなたはどう考えますか。
<調査対象> 本学の教員・職員・学生
<調査方法> アンケート用紙への筆記回答

アンケートは法・文・経済・理・生活科学の5学部と学生サポートセンター、女性研究者支援室、南食堂、第7合同部室棟で実施した。（商・工・医及びその他施設では、諸事情により実施していない。）
合計474枚のアンケートを配布し、47枚の回答を得た。回答者の内訳は、教員 10 職員 17 学生 19 その他 1 であった。

以下、質問と回答を示す。

質問1: あなたは夫婦別姓について関心がありますか。
回答のあった47人のうち、「関心がある。」が34人、「関心がない。」が11人、「どちらともいえない。」が2人であった。



「関心がない。」の理由として、次の意見があった。
名字を気にしたことがないから。（学生）
同姓・別姓のどちらでも良いと思うから。（学生）
結婚はまだ先のことであるし、また、自分は男なのであまり夫婦別姓について考えていないから。（学生）
自分は別姓にしようと思わないから。（職員）
当面、このこと（夫婦別姓）とは無縁だから。（教員）
婿養子に入るか、結婚しなければ良いだけのことだから。（職員）
事実婚を含め、個人の自由にしたら良いのにと思うから。（職員）

考察
11月下旬から、多くのメディアで夫婦別姓問題が取り上げられていたことも関心を集めた一因であると考えられる。しかし、必ずしも全ての人が当事者意識をもって夫婦別姓問題を考えていたわけではないようだ。

質問2：あなたは夫婦別姓について次項目のうち、どの立場ですか。
回答のあった45人のうち、「夫婦別姓を認めるべきだ。」が11人、「夫婦は同じ姓であるべきだ。」が7人、「別姓・同姓を選択できるようにすべきだ。」が27人であった。

「別姓・同姓を選択できるようにすべきだ。」に対して、次の意見があった。
子供や社会、日常生活に弊害がなければ、別姓・同姓を選択できるようにすべきだ。（職員）

質問3:今までに、名字にまつわるトラブルに遭ったことがありますか。次項目のうちから選択。(複数回答可)

回答数が少なかったため、個別に見ていく。「結婚の際、どちらの姓を選択するかでもめた。」は1人であった。「結婚後、同姓にしたことで様々な手続きの変更にてこずった。」は4人であった。具体的な意見としては、次のものがある。

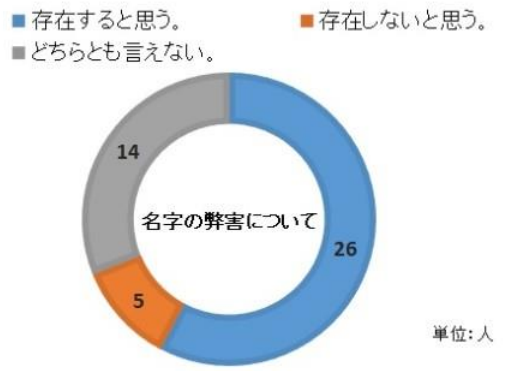
・実母と名前が違うことで、実母に頼まれた貯金を窓口で出金できなかった。この場合、委任状も全く意味をなさない。(職員)
・カード名義、パスポート名義の手続きに苦労した。(教員)

「姓を誤って書かれた、読まれたことがある。」は5人、「事実婚(ここでは婚姻届を出さない結婚と定義する)の後、どうして姓を統一しないのか第三者から聞かれた。」が1人であった。また、「離婚後、姓を変更したことで離婚を知られたくない人にも知られてしまった。」を選んだ人はいなかった。最も多かったのは「その他」で6人であった。「その他」を選んだ人の事例は次のものである。

・母の名字を名乗っていることに対して、なぜ父の名字でないのかを尋ねられた。(学生)
・銀行ローンのため、夫はやむをえず私(妻)の姓にし、通名で旧姓を使っている。姓が異なると、カードやパスポート、運転免許などの手続きで面倒が多い。(教員)
・会社にかかってきた新姓での呼び出し電話で、「そんな人は会社にいない」と電話に出た人が対応した。(職員)
・家族が事実婚しか選択できなかった。(職員)
・事実婚をしている。夫婦として、他人と話していた時、姓が異なることを告げると不審な顔をされた。他人から内縁の妻と言われ、正規の夫婦として認めてもらえないことに辛さを感じる。(教員)

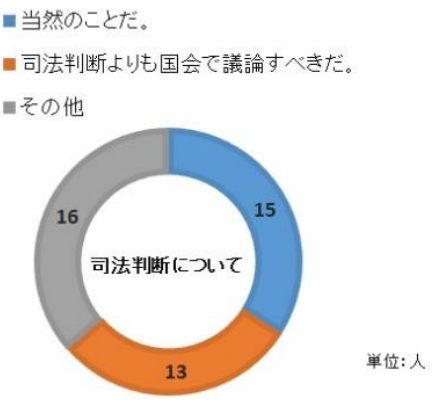
質問4:仕事や学業の中で名字にまつわる弊害は存在すると思いますか。

回答のあった45人のうち、「存在すると思う。」が26人、「存在しないと思う。」が5人、「どちらともいえない。」が14人であった。



考察
過半数の回答者が仕事や学業の中に名字にまつわる弊害が存在すると答えている。これが同姓・別姓の選択を難しくしているのであろう。

質問5:夫婦別姓について司法判断が下されたことをどう考えますか。
回答のあった44人のうち、「当然のことだ。」が15人、「司法判断よりも国会で議論すべきだ。」が13人、「その他の意見」が16人であった。



「その他の意見」として次のものがある。

司法判断・国会での議論のどちらでも良いと思う。(学生)
家族制度を抜本的に議論すべきなので、社会福祉制度とともに国会での議論は必要だが、その前に夫婦同姓を定める民法規定を違憲とすべきである。(教員)
司法判断をふまえて議論をすべきである。(学生)
国も司法も両方が議論すれば良いと思うが、別姓を訴えている人がそんなに多いのか疑問である。今は増税や戦争など、もっと国民のため、日本のために真剣に話し合うことはたくさんあると思う。(職員)
訴訟が提起されたのだから判断せざるを得ない。(教員)
夫婦別姓についての司法判断は妥当ではない。(職員)

本来、国民投票で決めるべきである。(教員)
日本の慣習を変えない限り、別姓は可能にならないのではないか。男性側がもっと女性側の姓に変わることに抵抗がないようになると良いと思う。(職員)
国民的議論が必要であると考える。(教員)
何か一つに決めてしまうのではなく、名字を二つとも使うとか奪う観点よりも発展的な議論をすべきだ。(職員)
ある程度は妥当と考える。夫婦別姓になれば便利だとか、女性の権利向上につながると考えるのは安易だ。子供と親の姓が不一致になるという不便もあり、結婚後に戸籍名は夫婦同一、仕事上や個人の選択により通称名も認められる社会になれば良いと考える。(教員)

(注1) 民法750条…「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫または妻の姓を称する。」と規定する。 裁判では、憲法13条(個人の尊重)、14条1項(法の下の平等)、24条(両性の平等)との関係が争点となった。

(注2) 民法733条1項…「女は、前婚の解消または取り消しの日から6か月を経過した後でなければ、再婚することができない。」と定める。裁判では、憲法14条1項、24条との関係が争点となった。

参考: デイリー六法 平成27年版

文責
丹下舜平(Hijicho)

第2回シスターフッド・プログラム開催

大阪市立大学同窓会主催の第2回シスターフッド・プログラムが1月23日、大阪市立大学文化交流センターの大セミナー室で開催される。本プログラムは、女子学生の夢を応援することを目的としたものだ。最初の30分間は、海上保安大学校に初の女子学生として入学した経歴を持つ、大阪市立大学創造都市研究科の永田潤子准教授が話をする。その後ゲストスピーカーによる講演があり、最後には参加者とゲストスピーカーを交えての座談会が行われる予定だ。

昨年12月5日の第1回プログラムでは、株式会社マンダムの人事部ダイバーシティ推進室室長を務める西浦けい子さんが講演を行った。西浦さんは、当時まだ女性技術者が少なかったなかで技術職に就いたことの苦労や、その後の人事異動による人生の転機などを話され、最後には人生における自分自身の決断力と実行力の大切さを強調した。講演の後の座談会も和気あいあいとした雰囲気で行われ、参加者がそれぞれの疑問や悩みを正直に話すことのできる良い場となった。

写真＝第1回シスターフッド・プログラムの様子

第2回のゲストスピーカーは、株式会社積水ハウス企画部ダイバーシティ推進室部長の小谷美樹さんである。自分の大学生活や将来を考えるうえで、良い刺激となることだろう。本学女子学生の方はぜひ参加してみてはいかがだろうか。

【第2回シスターフッド・プログラム】
日時：1月23日(土) 14時～17時
場所：大阪市立大学 文化交流センター 大セミナー室(大阪駅前第2ビル6階)
対象：大阪市立大学の女子在学生
費用：無料

【お申し込みにあたって】
●参加希望の方・質問のある方は、以下の項目についてメールで送信してください。
・氏名 ・学年 ・学部 ・参加できる日など

★送り先：alumni@ado.osaka-cu.ac.jp

●メール内容を確認後、事務局が返信します。
●第2回 参加の申込みは1月20日まで。

関連記事
教授が語る夢 創造都市研究科・永田潤子准教授
http://hijicho.com/?p=14370

文責・写真
大塚成美(Hijicho)

2016年卒内定者が語る、私の就活体験記＜後編＞

　これから就活を控えた読者に対し、「就活」とはどういったものなのかをイメージを持ってもらうべく、就活を終えた16年卒の市大生の体験談を紹介する。本記事を通じて就活への疑問や不安の解消に少しでも役立てば幸いだ。

前半部分の記事は
右のQRコードから

内定者のプロフィール

Aさん (法・女性)　情報通信会社内定		Bさん (商・男性) 自動車部品メーカー内定	
セミナー・説明会参加数	80社	セミナー・説明会参加数	40社
インターン参加数	6社	インターン参加数	0社
エントリーシート提出数	40社	エントリーシート提出数	30社
面接を受けた会社数	20社	面接を受けた会社数	7社
内定をもらった会社数	2社	内定をもらった会社数	1社
就活にかかった費用	6万円	就活にかかった費用	26万円
服代2万円/交通費1.5万円/写真代1.5万円/飲食費1万円		服代12万円/交通費8万円/写真代1万円/飲食費5万円	

Cさん (商・男性)　物流会社内定		Dさん (経・女性) 銀行内定	
セミナー・説明会参加数	40社	セミナー・説明会参加数	50社
インターン参加数	5社	インターン参加数	0社
エントリーシート提出数	22社	エントリーシート提出数	25社
面接を受けた会社数	18社	面接を受けた会社数	15社
内定をもらった会社数	6社	内定をもらった会社数	3社
就活にかかった費用	12万円	就活にかかった費用	29万円
服代6万円/交通費3万円/写真代1万円/飲食費2万円		服代6万円/交通費10万円/写真代3万円/飲食費10万円	

Eさん (法・男性)　保険会社内定		Fさん (法・男性) 証券会社内定	
セミナー・説明会参加数	50社	セミナー・説明会参加数	47社
インターン参加数	8社	インターン参加数	4社
エントリーシート提出数	30社	エントリーシート提出数	17社
面接を受けた会社数	23社	面接を受けた会社数	11社
内定をもらった会社数	4社	内定をもらった会社数	5社
就活にかかった費用	14万円	就活にかかった費用	26万円
服代6万円/交通費2万円/写真代1万円/飲食費5万円		服代5万円/交通費15万円/写真代1万円/飲食費5万円	

－エントリーシートで気を付けておくべきこと、工夫したことは何ですか？

A：手書きの時はきれいに書くことや、封入物がそろっているかを特に注意しました。コツは、短くかつ論理的に相手に伝えることだと思います。就職支援室の人に何度も添削してもらい、上記のようなエントリーシートになるようにしていました。

B：エントリーシートは面接と違って文字だけで判断されるので、的確に伝えることが大切だということですね。

C：私は志望動機と学生時代に頑張ったことなど、3つのそれぞれ違うエピソードを用意しておいて、それぞれから自分の強み、弱みにアプローチすることで一貫性のあるように工夫していました。

D：数字を入れて話を具体的にするようにしていました。手書きの場合は罫線を入れてから書いていました。

E：誤字脱字がないように何度も読み返していました。また、エピソードはサークル、アルバイト、勉強などバランスよく幅広く織り交ぜていました。

F：結論から先に書き、読みやすい文章を心がけました。あとは文字数は制限ぎりぎりまで書くようにしていましたね。

－SPI・性格検査・適性試験（注１）はどうやって乗り越えましたか？

A：性格検査は正直に答えてました。SPIは中学受験を経験していたためか、抵抗感はありませんでした。問題集を使って苦手なところを重点的に演習を行いました。

B：僕はSPIは一度も勉強していませんでしたが、全部合格しました。しかし、英語の試験は落ちてしまったので、事前に単語などを勉強しておけばよかったですね。

C：テキストは買ったんですけど、あんまりやりませんでした。性格検査やSPIは後ろの方を切る作業というイメージがあったので、あまり重視していませんでした。

D：SPIは無料のアプリがあったので、それをインストールして移動時間などに使っていました。英語は特に力を入れて勉強していました。ヒアリングとスピーキングの試験が特に苦労しました。TOEICなどの資格をあらかじめ勉強しておけばよかったなと思います。

E：性格検査は自分の考えを正直に答え、SPIは問題集や就職支援サイトの模擬試験を活用していました。

F：性格検査は会社にとって必要としている存在を選ぶためにやっているので、時には合わせることも大切ではないかと思います。SPIは問題集をやりこみ、慣れておきました。

－自己PRではどんなことをアピールしていましたか？

A：基本的にはアルバイトのことを話してました。教育関係のアルバイトをしていたのですが、生徒との信頼関係を築くために相手のことをいろんな角度で物事を考え、粘り強く取り組むことができる、という点をアピールしていました。
B：僕はサークルのことを話していました。サークルでは班で研究するという取り組みがあるのですが、僕はそこでのリーダー経験をアピールしていました。
C：部活で部長をしていた経験からリーダーシップと人を伸ばすことができる点をアピールしていました。しかし部活経験ばかり話している人が多いので、差をつけるためにあえて他のことを織り交ぜていました。
D：ほぼ部活のことしか話しませんでした。強みも学生時代に頑張ったことも裏付けはすべて部活にしていました。一人で頑張ったことを書いてもしょうがないなと思ったので、集団をまとめて頑張った経験をアピールをしていました。
E：主にサークルでの代表をした経験や大きなプロジェクトを成功させたことなどをアピールしていました。他にはアルバイトの話もしていましたね。エピソードから信頼、貢献、挑戦という私の3つの軸について裏付けしました。
F：部活での活動を中心に話していました。困難になっても諦めない粘り強さをアピールしていました。

ー 面接やGD（グループディスカッション）で工夫した点/反省した点 は何ですか？
A：GDは、当初議論を進めることだけに集中してしまい、結果を出すことだけを追い求めていたことが反省点ですね。その後は周りの人の意見を聞き、議論の流れをまとめるように心がけていました。面接は、笑顔とゆっくり話し対話を常に意識していました。反省点は、予想外の質問が来た時に頭が真っ白になってしまうことがあり、落ち着いて言えるほどに事前に準備をしておけばよかったなと思います。
B：工夫したところは、やはり笑顔で話すところや相手の目を見て声を大きく話したりすることですね。反省した点は、面接の練習をしていなかったことです。GDは私は経験しませんでした。
C：エントリーシートで工夫した点と同じように、全部の話がリンクするように話すようにしていました。GDは、議論が白熱しても周りに流されずに落ち着いて話すようにしていました。
D：GDは最初、なにも練習しないまま参加して失敗してしまいました。そのことを先輩に相談した時に「会話が途切れたときに議論をまとめる一言を挟めばいいんだよ」とアドバイスをもらい、以降はそのアドバイスを実践していました。あとは言われたことは必ずやるようにしていました。面接は、ハキハキとはっきり話して、あいまいなところは残さないようにしていましたね。
E：GDは自分の意見を言うことに夢中にならずに、まずはみんなの意見を踏まえて発言するようにしていました。GDはいい意見を出したり、多く発言することだけが評価対象ではなく、それ以上に協調性が重視されているように思いました。面接は他の皆さんと同じように相手の目を見てハキハキと、あとは表情豊かにしていました。
F：GDはリーダーシップを発揮していましたね。あとはリクルーター面接での話になるのですが、こちらからの質問をいくつかあらかじめ考えておくようにしていました。

ー 17年卒より解禁時期が6月に前倒しとなるが、どのような影響が出ると思いますか？
A：6月解禁になるということで、全体的に早くなるのではないかと思います。でも私の就活のピークは6月だったので、案外今年と変わらないのかな、という気持ちもあります。
B：僕の場合は8月から面接のところばかりだったので、それが6月解禁になってしまって大丈夫なのかな、と思いました。今年と比較して余裕がないのは確かでしょうね。
C：僕は6月解禁の方がいいと思います。就活のワンサイクルが終わらないと就活生が減らないので。今年も内定をもらっても8月までは就活を続ける人が多く、早く一区切りつけてあげた方がいいのではないかと思います。
D：6月解禁だとテストとかぶってしまう可能性が高いので、かわいそうだなと思いますね。でも一方で8月解禁だった今年はお盆休みも就活をしていたことを考えると早い方がいいのかなとも思います。企業のセミナーの開始時期が2月に前倒しになるなど、全体的に早い時期から動き出すことになると思います。
E：現時点での企業の動きを見ていても全体的に前倒しになることは間違いなさそうですね。今のこの時期にどれだけ動けるかが今後の成否を大きく左右するのではないでしょうか。
F：就活のスケジュール自体も短縮されるので、例年以上に忙しくなりそうですね。志望動機や自己PRは早めに作っておいた方がよさそうです。

ー 今年は面接の8月解禁（注2）を守っていましたか？　「裏選考」ってありましたか？
A：選考の8月解禁は守ってなかったですね。裏選考は私の場合はあんまりありませんでした。しかし、座談会やセミナーと銘打っておきながら、実際に参加してみると実は選考だった、ということは何度かありました。

B：僕の場合は8月から選考開始だったところもありましたが、内定をもらったところは最終面接を8月にしました。8月解禁を守っているかどうかは業界によると思います。
C：僕が受けた企業はほとんど守ってなかったです。水面下での企業からの接触もありましたね。
D：インターンに参加した人は、早い時期に内定をもらっていたという話は聞きました。面接自体は8月からだけど、それまでに人事と面談や相談会などがあり、それをクリアすると一部の選考が免除されるなどはありました。
E：8月解禁を守っているかは業界によりますね。一部の会社が前倒しにすると他も追従しているようです。また、今年は通常とは別の裏ルートでの選考が多くあったように思います。ごく一部の人にだけリクルーターが付いたり、特別セミナーや模擬面接会の案内が来たりということを私は経験しました。4社から内定をもらいましたが、そのうちの3社は裏選考によって通常よりも早めに内定をもらいました。
F：8月解禁は最大手の会社は守っているという印象です。2番手以下は選考が早いことが多いように思います。裏選考も多いと思います。いろんなルートからの選考がありました。

－ 印象に残っている面接/質問はありますか？
A：面接で、なぜ業界がバラバラなのか、志望順などを細かく聞かれた面接が印象に残りました。
B：私は会社の経営理念に共感したという点を志望動機として挙げることが多かったのですが「実際はその経営理念が浸透しているのかはわからないのではないか」と面接で突っ込まれたことが印象に残っています。
C：面接ではなく、エントリーシートになるんですが、A4白紙の2枚に自由に書く、という形式のエントリーシートが印象に残っています。
D：旅行会社の面接で「100万円あったら何に使いますか」と聞かれたことが印象に残っています。
E：某マスコミの最終面接が12対1という個人面接で、それが印象に残っています。緊張はしませんでしたが、あまりにも人が多すぎて4人くらいしか視界に入りませんでした(笑)。
F：印象に残った質問は「あなたにとって野球は何ですか」と「この会社の色は何色ですか」という質問ですね。

－ 複数の内定をもらった人はなぜその会社を選びましたか？
A：私は2つ内定を頂いていたのですが、面接などで私のことを知ろうとしてくれて必要にしてくれているんだな、と一番感じることができたのが決め手ですね。
C：自分が活躍できそうな場所かどうか、という基準で選びました。大企業に行って普通に働くのではなく、自分が頑張る動機がある会社を選びました。
D：CA（キャビアアテンダント）と金融業界から内定を頂いていたのですが、CAは自分のやりたいこととは違うなと考えやめました。金融業界の2社は規模や安定性から選びました。
E：社員の方や他の内定者の様子を見て、一番自分の雰囲気に合う会社を選びました。これから何十年と働くことになると思うので、規模や売り上げよりも自分に合うかどうかを選択基準にしていました。
F：この社員と一緒に働きたい、と思える会社だったからです。周りと切磋琢磨して成長できる場で働きたいと思っていました。

－ オワハラ・圧迫面接（注3）実際に経験しましたか？
A：圧迫のような面接はありました。オワハラをにおわせてくる企業もありましたが、そうした場合は私の価値観と合わないなと感じて次のステップに進みませんでした。
B：私はあまりなかったですね。
C：私は就活が早く終わったので、オワハラはありました。「内定承諾書を早く出してください」と言われたことがありました。
D：私はなかったのですが、友人から聞いた話ではコーヒーを掛けられた人もいたようです。
E：私も特にはありませんでした。内定辞退の電話を掛ける時はびくびくしていましたが、拍子抜けするくらいあっさりで丁寧な対応でしたね。
F：私も経験しませんでした。

－ 一番辛かったときはどんな時でしたか？またそれをどうやって乗り越えましたか？
A：私は選考がうまくいかないときが一番辛かったですね。そんな時は、友人と家族にも相談しましたが、キャリアセンターの人に一番相談しました。アドバイスをもらい、自分自身がスキルアップをすることで乗り越えました。
B：一番しんどかったのは7月ですね。エントリーシートが思ったよりも通過しなかった時は本当に内定をもらえるのか不安になりました。その時は友達と愚痴を言ったり、説明会にもう一度参加して頑張り、気分転換していました。
C：僕は5月～6月の時期がしんどかったです。早い時期から内定をもらっていて、みんながまだ一生懸命就活をしているのに自分はあまりしていなくていいのか、と漠然とした悩みを抱えていました。そんな時は気ままに遊んで過ごしたり、あとは一人で落ち着いて考える時間を増やして解消しました。

D：私も5月～6月が一番しんどかったですね。部活の忙しい時期とESの締め切り時期がかぶって大変でした。多くの人に囲まれていたので、飲み会をしたり話したりすることでストレスを発散していました。
E：7月8月は暑さや東京と大阪の往復が続き、体力的にしんどかったですね。そんな時は友達とおいしいものを食べに行って息抜きしていました。
F：しんどかった時は、第2志望の会社に落ちたときですね。落ちたことが分かった後の他社のセミナーで悔しい自分の気持ちを吐き出して、乗り越えました。

－「市大」という肩書は就活にどう影響しましたか？
A：マイナスではないという感想ですね。
B：僕は今の内定先は市大という肩書が割と大きかったんじゃないかと思っています。会社によって大学ごとの枠が設けられていることが多いので。21世紀セミナー（注4）に来てる会社は市大生を採用する意欲がある会社ばかりなので、一つの基準として見ておくべきですね。
C：市大の肩書の影響はあまり感じなかったですね。自分の力だと信じて就活を進めてきたので。
D：東京に行くと少し肩身が狭かったですが、それ以外は私は影響は感じませんでした。
E：いわゆる学歴フィルターにはかかることはあまりないと思うので、スタートラインには立つことはできますが、内定は自分自身の力で勝ち取らないといけません。しかし関関同立などの私立大学と比べ母体数が少なく、印象に残りやすいなどのメリットは多いです。
F：可もなく不可もなくですね。学歴ではなく、自分の力で勝負しないといけません。

－就活を終えて感じること、成長したと思えることはなんですか？
A：自分がどんなことを考えているのか、自分のいいことを考える機会が多いので、自分のことを深く知ることができた点とこれから働く上のビジョンを明確に持つことができた点が成長できたと思える点です。
B：社会人の方と接することで、考え方が現実味を帯びてたものに変わっていった点が成長した点ですね。
C：大手企業がいい、といった既成概念にとらわれることがなくなった点が一番成長できたところですね。就活は決して人生を決めてしまうものではないんだと就活を通じて知りました。
D：自分がどんな人間なのかを知ることができた点ですね。適性を知ることで選択の基準が明確になりました。あとは説明会などでいろんな会社を知ることができ、勉強になりました。
E：価値観が変わった、というと大げさに聞こえるかもしれませんが、さまざまな立場の社会人の人と話すことで、自分自身のやりたいこと、適性などが見えてきたように思います。
F：何でもとにかくやって見ようという行動力が身についたと思います。

－これから就活を控えた読者にひとことお願いします。
A：就活は大変だと思いますが、好きなことを仕事にしてほしいと思います。そのためにはどんな仕事をしたいのか、どんな会社がいいのかをしっかり考え就活をしてもらえればと思います。
B：いろいろと悩んだらいいと思います。私自身悩み抜いた就活だったので。決して大きな会社に行くことだけが良いのではありません。就活でこれからの自分の進路が決まるので、自分がしたいことにあてはまる会社を選んでもらえればと思います。
C：就活で人と比べないでほしいと思います。就活というフィールドだけで比べてしまうのは、学生生活を無駄にしてしまうことになってしまうと思います。自分のスタイルを貫いてほしいと思います。
D：学生時代に頑張っていることは就活にも活きてくると思うので、今頑張っていることをこれからも続けてほしいですね。
E：固定観念にとらわれずになんとなくでもいいので、いろんな会社、人と出会って自分のやりたいことを見つけてほしいですね。やりたいことを見つけたら、あとは企業研究を怠らず面接に臨めばきっと道は開けると思います。
F：「とにかく行動しろ」の一言に尽きます。家にいても仕方がないので、自分の足を使っていろんな場所に足を運んでみてください。

(注1) SPI・性格検査・適性検査： 業務をする上での資質・能力・性格特性等を科学的・客観的に測定する試験・検査のこと。
(注2) 面接の8月解禁：面接などの選考を開始する時期を8月1日に解禁とする日本経済団体連合会の指針のこと。
(注3) オワハラ：就活終われハラスメントの略。内々定を出した学生に対して就職活動を終えるように働きかけたり、長時間拘束する行為。
圧迫面接：面接で学生に対して、わざと威圧的な質問をし、これに対する応答を評価する面接。
(注4) 21世紀セミナー：高原記念館で行われる学内セミナーの名称。

文責
町田和紀（Hijicho）

市大新聞 Hijicho では、市大生の声や想いを共有すべく、市大や市大生の生活に関する**川柳**を募集しています。毎月テーマを設け、それに沿って優秀賞などの選考を行い、**翌月の紙面（Web版なども含む）にて発表**させていただきます。
1月号では、テーマ「**福**」に合わせ、非常に多くの作品をご応募いただきました。

市大川柳

金賞

福袋 買いに出かける 服がない
PN Dogg master 好き奴

選考委員のコメント
ダジャレが「ふく」まれていてオシャレです。いいことがありますように！

銀賞

福よ来い 賽銭投げて 単位乞い
PN 柱平和

選考委員のコメント
先生に賽銭を投げたら単位をもらえるかもしれませんよ。読者の皆さんにフル単の春が来ますように。

来たれ幸福賞

福よ来い 彼女という名の 女神様
PN さくらぎ壱伍

選考委員のコメント
彼女を女神に例えるところに切実さを感じました！来るといいですね！

作品応募はこちらから

次の4月号のテーマは『**桜**』です。ご応募お待ちしております。

<選考基準>　・テーマに沿っていること・五七五を目指していること
・市大、もしくは大学生の生活に関するないようであること
この3つの基準をもとにHijichoの選考委員が選考いたします。
<募集締め切り> 4月号分（テーマ『桜』） 2016年3月20日まで
<募集要項>右上のQRコードより専用応募フォームにアクセスの上、ご応募いただくか、hijicho@gmail.com まで件名に市大川柳、本文に所属、氏名(ペンネーム可)を明記して送付ください。※作品は紙面やWebに掲載されることがあります。テーマ以外の作品でも構いません。

冬の健康フェスタ　ヨガ体験で体ほぐす

冬の健康フェスタ2015が12月11日、北食堂で開催された。生協主催の健康フェスタは毎年2回、初夏と冬に開催されており、無料で参加できる。今回は肺活量、握力、背筋力、血流などをチェックするブースが設けられた。

血流のブースでは、専門家が参加者の血流を検査した。参加者は専門家のアドバイスに真剣に耳を傾けていた。手洗いチェックのブースでは、住吉区保健福祉センターの職員が参加者の手洗い後の汚れを検査した。参加者は汚れが残っていることに驚いている様子だった。市大ヨガサークル協賛のヨガ実演ブースでは、参加者は「皿回し」などの慣れない動きに体を痛めている様子だった。ブースを回ってスタンプを7個以上集めた参加者には野菜ジュースがプレゼントされた。

次回の健康フェスタは2016年6月下旬ごろ開催予定。

<次面に写真>

写真＝背筋を測定する参加者

文責
松岡進之介（Hijicho）

写真＝ヨガを体験する参加者たち

写真
丹下舜平（Hijicho）

新入生特別号レモンライス 掲載団体募集！

新歓期まであと約2か月。たくさんの新入生に入ってもらうべく、多くの部活、サークルが新歓について話し合うことが多いのではないでしょうか。しかし、試験が近くて時間がない、ビラを配るとなると時間も手間かかるし……とお悩みの方もいらっしゃると思います。

そんな皆さまに朗報です！　大阪市立大学新聞Hijichoは新入生に向けて部活やサークル、学内や地域の情報を紹介する冊子「新入生特別号レモンライス」を今年も発行します。そこで、掲載する部活・サークルを只今募集中です。この冊子は昨年もご好評を頂いており、皆さまの所属する部活・サークルについて、効率よく新入生にアピールすることができます。

なんと今年は昨年よりも掲載団体や情報量を増やし、より内容を充実したものにする予定です。なのにお値段変わらず2000円！

右写真＝
昨年の新入生特別号レモンライス

【新入生特別号レモンライス 概要】
B5サイズ 全36ページ 全面カラー（印刷・製本は専門業者に委託します。）
発行部数 1500部
配布時期　前期入学手続き日より順次配布開始予定
新入生への直接手渡しによる配布のほか8号館や食堂など学内各所への設置も予定しています。なお、配布につきましては多くの新入生にいきわたるよう大阪市立大学新聞Hijichoが責任をもって配布いたします。
※ページ数や配布時期につきましては、状況により予告なく変更することがあります。

【部活・サークル紹介　掲載団体募集要項】
1団体当たりのスペース：B5サイズの1/3
記載内容：団体紹介（120字まで）　活動内容・活動場所・活動日・活動人数・問い合わせ先（それぞれ20字程度）/写真
掲載基準：市大生が所属している団体である事
掲載料：2000円（レイアウト・印刷・製本・配布などすべて込みの費用です。）
申し込み締切： 1月16日(土)
データ入稿締切 ：1月30日(土)
申し込み方法：右のQRコードまたはURLから応募フォームへ
応募フォームURL：
http://goo.gl/forms/LKB6PX1Cvp
文責　中村有里

ミナミ学生祭2015冬の陣に 青桃会が似顔絵ブースを出展

去る2015年12月13日、道頓堀のとんぼりリバーウォークでミナミ学生祭2015冬の陣が開催された。本学からは美術部青桃会がブースを出展し、似顔絵制作とオリジナル年賀はがきの販売で来場客を楽しませた。

ミナミ学生祭に参加したのは青桃会の3年生以下の部員たち。青桃会による似顔絵制作は銀杏祭など市大に関連する祭事ではおなじみで、部員がその場で客の顔を見ながら似顔絵を描いてくれるというもの。今回は大学という枠を超え、広く一般の方も訪れる学生祭での出展とあり、ブースは来場客でより一層のにぎわいを見せていた。特に、描いた似顔絵を受け取り笑顔で喜ぶ人々の姿が印象的であった。またブースでは、部員たちが作ったオリジナル年賀はがきの販売も行われていた。部員の描いたイラストを絵柄にした年賀はがきが売られ、気に入った物を手に取る人の姿が多く見受けられた。

似顔絵を描いてもらった谷川真奈さん（経・４）は「似顔絵はめちゃめちゃかわいく描いていただいたので、自慢したいと思います。お祭りは学生が盛り上げている感じで、予想以上に楽しかったです」と、うれしそうに語っていた。

写真＝青桃会出展ブースにて、似顔絵を手に喜ぶ来場客と青桃会部員（大谷写す）

文責
大谷 学（Hijicho）

choっとカフェログ

アットホームな焼肉店 ～家族亭～

choっとカフェログとは、市大生や地域の方々がちょっと立ち寄れる飲食店を掲載していく企画である。

店に入ると肉の良い匂いとともに気さくな店主、店員が出迎えてくれる。今回ご紹介するのは住吉区遠里小野の焼肉店「家族亭」だ。

写真＝家族亭店舗正面（家族亭提供）

家族亭は1988年から28年間に渡って家族で経営されている、地元に愛される焼肉店だ。「地元に密着したアットホームなお店を目指している」と店主の木下高雄さんが話すとおり、明るくて入りやすく、かしこまって来るような雰囲気ではないところが家族亭の魅力だ。そして、店内には客を通して知り合ったスポーツ選手のサインが数多く飾られている。本学とのつながりも強く、長年市大生のアルバイト先になっており、本学教授が来店したこともあるという。

店名には家族に来てほしいという願いが込められており、実際に家族での来店が多く、一番人気のメニューはファミリーセットとなっている。掃除が行き届いた店内にはブランケットや絵本が用意されており、子供連れにも優しい。

素材にはかなりこだわっている。毎日道の駅などで野菜を購入し、水は天然の湧き水である奈良のごろごろ水を使用。肉は希少部位を提供しているところも他の店との違いだ。それでいて他の焼肉店よりも1割から2割5分ほど安い。

「家族で経営しているため家賃が要らない分、お客様に還元している」と木下さん。どこまでも客のことを考えた姿勢が、長年続いている理由だろう。

取材当日、店長のおすすめメニューである特製4種盛り（ザブトン、カイノミ、特選カルビ、特選ハラミ）を頂いた。実に柔らかくうまみのある肉は舌の上でとろけ、肉の味を損ねることのないさっぱりとしたタレは肉本来の味の良さを存分に引き出している。絶妙な組み合わせだ。木下さんが「味は一番！」と言うとおりである。

写真＝特製4種盛り（4200円）（中村写す）

ちょっと贅沢したい、おいしいものが食べたいという日には、家族亭で心ゆくまでくつろいでみてはいかがだろうか。

家族亭
住所
〒558-0032 大阪市住吉区遠里小野3-7-76
営業時間
平日ランチ：11:30~14:00
　　ディナー：16:00~23:30（L.O.23:00）
日曜祝日：17:00~23:30（L.O.23:00）
※日曜祝日のランチメニューはなし
定休日
水曜日（祝日の場合は営業）
電話番号：06-6693-0805

アクセス：JR「杉本町」駅から徒歩8分

文責
中村有里（Hijicho）

市大フォト

作品募集中

市大新聞Hijichoでは、市大フォトに掲載する写真を募集しています。採用された写真は翌月の紙面 (Web版なども含む) にて発表させていただきます。みなさまからのご応募お待ちしております。

【募集締切】
新聞発刊前月の20日まで
【応募方法】
件名に市大フォト、本文に所属、氏名(ペンネーム可) ・写真のタイトル・撮影日時・場所・写真の説明を明記し、hijicho@gmail.com までお送りください。
【応募規定】
・大学または大学付近で撮影した写真のみを受け付ける。・一人何点でも応募可。
・応募作品の撮影時期不問。
・応募者本人が撮影し、著作権など全ての権利を有する作品に限る。
【応募形態】
・モノクロ不可。カラーのみ。
・画像の加工、合成は不可。
・使用機材の機種は不問。
・写真は全部合わせて14MBを上限とする。

今月の市大フォト

「さいごの」　撮影者：マキバオー

選考委員のコメント
移り行く季節を感じられながら、幻想的でもある一枚ですね！

マダム鳥子のピーチクパーチクうるさいわね！
～今日も悩める雛鳥たちから～　vol.3

今回のお悩み
大阪にある大学に通っているのにとっさに面白いことを言えないのですが、どうすればいいでしょうか

黒子の巨人（ワンダーフォーゲル部）

A.　まずは明けましておめでとう。今年もよろしくね！　最近は迷える小鳥ちゃんたちが増えてきたのか、最初の頃に比べてお便りが多く届くようになったわ。みんな、たまには羽休めも大切よ？
*　じゃあ、回答に移ろうかしら。まぁまぁ、黒子の巨人さんもたいへんね。「大阪といえば、お笑い」って印象が強くて、日常のやりとりでもオチを求めたり、面白いことを言わなきゃいけないって思ったりしちゃうものね。でもね、考えてもみて。「大阪だから面白いことを言わなきゃ！」ってなると、東大寺や奈良公園で有名な奈良の人たちが「奈良だからシカや大仏に詳しくなきゃ！」って話になるし、おかしな話だと思わない？　大阪にいるからって面白いことを言う必要はないのよ。そういうのは面白いことが言える人に任せて、アナタはアナタにしかできないことを頑張れば良いのよ！それに、大阪でずっと暮らしているからって面白いことが言えない人はたくさんいるわ！　アタシの昔の男も大阪出身の雄鳥でね、一時は「わしはお笑い界でトップになるんや！」って言ってたけど、正直スベッていたわ。……まぁ、ある意味面白いヤツだったけどね。元気かしら、アイツ。*

今日のマダム鳥子
「トークのお勉強」

相談は右のQRコードから